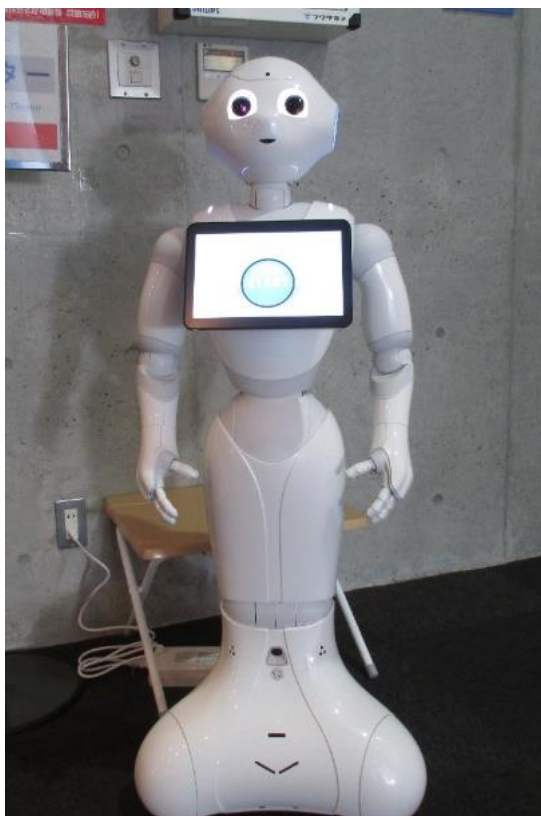


ペッパーくん 登場 !!

デンマーク王国文化大臣・駐日大使
一行が来館されました

ソフトバンク社の人型ロボット「ペッパー」
が「稲むらの火の館」に登場しました。



この「ペッパー」は、日本語と英語を話します。
「おはよう」や「こんにちは」をはじめ、あい
さつはきっちりします。

「かわいいね」と言ってみると、「お世辞でもう
れしいです。」と答えるのです。ペッパーは何歳
でしょうか。聞いてみてください。「握手してく
ださい。」と言うと、手を出して握ってきますよ。

「クイズに挑戦」「ゲームで遊ぼう」等いくつ
かのジャンルで、対応できます。もちろん、「や
かた」ですから、防災を勉強していただくのが
基本です。ペッパーは、歩きまわることではでき
ませんが、ペッパーは成長していくということ
も聞いています。どのように成長していくのか
楽しみです。皆様もペッパーに会いに来てみて
ください。楽しいですよ。

日本とデンマークが外交関係を樹立して今
年が150周年になるそうです。同国のクヌッ
セン機関長が美浜町の日ノ岬沖で殉職されて
60年ということでもあります。毎年、日ノ岬
ではク機関長の慰霊祭が行われ、駐日大使が参
列されているそうです。昨年、この機会にフレ
ディ・スヴェイネ大使が「やかた」へ来館され
ました。今年は、こうしたメモリアルな年とい
うことで、本国からメテ・ボク文化大臣が来日
され、「やかた」へも同行されました。



上の写真では、立って挨拶されている方が、
文化大臣です。左側の方が駐日大使です。

日本とデンマークの両国は皇室と王室が相
互に訪問しあったりされて、深い友好関係にあ
るそうです。

和歌山県とは、2002年のサッカー日韓ワ
ールドカップの際、デンマークチームは和歌山
市で事前のキャンプをされました。試合場は韓
国だったにもかかわらずです。

「やかた」は、今回から表の駐車場に日章旗
とともに、外国からの来賓の国の国旗を掲げて
歓迎することになり、今回はデンマーク国旗を
掲揚いたしました。

今後、駐車場に外国国旗を掲げている時はそ
の国の要人が来館されるということですので、
皆様も歓迎していただきたいと思ひます。

濱口大明神縁起 (その2)

濱田康三郎(かわせみより)

ホールの前の方に数人の同性の友達と肩を並べて席を取り、講演の最初から熱心に傾聴していた一人の年若い婦人があった。聡明らしい顔付をした彼女は、そうしながらも絶えず探るが如き眼附をして講演者の顔をじっと見守っていた。講演が終って随意討論に移ってからも、彼女の眼は相変わらず彼の一举一動の上に注がれていた。彼女は外の会員達の提出した本題から稍離れた質問に彼が丁寧な説明をする度に、幾度かそのすぐあとについて自分も何事かを問い質そうとしかけては、強いて自分を制して、腰をもじつかせていた。

質問及び討論の合間が段々長引いて来て、今宵の清興も終りに近づいたのを覚えさせた時、司会者は懐中時計を取り出して四辺をながめ廻した。その様子を目ざとく認めた瞬間に、彼女は遂に我を忘れてすくっと座を立ち上がった。

『ミス・ロレッツー』

司会者の反射的な呼声に、やや草臥れ気味になっていた一同は、期せずして身体を婦人の方へ振り向けた。彼女は顔を火照らせて、二三度口をもぐもぐさせた後、早目に言葉を続けた。『——私は、先程の御講演の主題については彼是と論議する丈の能力を持って居りませんので、只今までわざと差控えていたのでございますが、皆様の御討論も大体おすみのようですから、最後に一寸講演者にお尋ね致したいと存じます。……実は、私は今日の講演者のお名前をうかがった最初から、或るロマンチックな疑問を頭の中から取り去ることが出来ず、それで先刻来皆様が想いをあの耳新しい日本の女性の上にお馳せになっていられる間にも、自分ひとりで色々限りのない空想に耽って居ったのでした。というのは、外でもございませぬ。皆様もよくご存知の、先年(一八九七年)当地のコンステーブル会社から出版になりましたラフカディオ・ハーン氏の「佛陀の畑の落穂拾い」。

あの書物の巻頭を飾っている「生ける神」と題する日本の老長者の涙ぐましい尊い犠牲の物語の主人公は、キシユウ・アリタのハマグチ・ゴヘイでございます。今日の講演者のお名前も濱口様と承ります。(つづく)

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

【おしらせ】

「世界津波の日」が制定された事に伴い、かねてより「やかた」の館内の表示等が多言語化する作業がすすめられていました。2月末をもって、リニューアルが完成いたしました。館内の表示は日本語と英語、QRトランスレーター化されました。QRトランスレーターとは、QRコードをスマートフォン等で読み込むと、



その説明文等がスマホに表示されます。この言葉は、中国語、韓国語、フランス語、インドネシア語、スペイン語で見ることができます。また、3D映画も「耳掛け型イヤホン」を使って、同じ言語で聞くことができます。外国からのお客様に、深く理解していただけたらと思いますのでご利用ください。

二階の「津波ライブラリー」であった部屋は、昨年提携を結んだ「アチェ津波博物館」の紹介コーナーになりました。スマトラ沖地震・インド洋津波を知っていただけたらと思います。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター

〒643-0071 住所 広川町広671

Tel: 0737-64-1760 / FAX: 0737-64-1761

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>

*開館時間: 午前10時～午後5時(受付終了4時)

*休館日: 月曜日・火曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/4)

*記念館だけの入場は無料です。

